〈青森県史〉の窓 179

旧暦から新暦へ

中園　美穂
（弘前大学非常勤講師）

八戸市の十三日町を行く三社大祭の山車
＝1960（昭和35）年8月22日・青森県史デジタルアーカイブスより

1872（明治5）年、明治政府は太陰暦（旧暦）から太陽暦（新暦）へ改める布告を出した。しかし改暦がすぐ浸透したわけではなかった。このため政府は継続的に新暦を奨励する措置を講じた。

近代の青森県では、農業をはじめ第1次産業に従事する人びとが多かった。官公庁や学校関係者以外は、旧暦で生活を営むのが主流だったとみてよいだろう。事実、年中行事や神社などの祭りは生活に根ざすため旧暦で執り行われていた。1908（明治41）年、政府は1910（明治43）年から官暦に旧暦を併記することを止めると通達した。

この通達が「旧暦廃止」として人びとに衝撃を与え、年中行事などを旧暦から新暦へ移行させた原因と言われている（平山昇『鉄道が変えた社寺参詣』）。

1910（明治43）年に官暦の旧暦併記が廃止されると、『弘前新聞』では、特に旧暦廃止の必要を感じないと主張した。弘前市内の商店は、顧客の大多数が旧暦で生活する郡部の農村関係者だからである。また、旧正月や旧盆は農村の大切な行事であり、大きな娯楽でもあった。旧盆は農作業が一段落し、見渡す限り青々とした稲田をながめ、出穂開花の良好な状況を見ながら心身をいたわる期間でもあった。そのためにも旧暦は必要だった。

三戸郡八戸町（現八戸市）を拠点とする『奥南新報』によると、東京では新暦3月3日にひな祭りを行うが、まだ寒い八戸町では旧暦の方が望ましいという。八戸各宗晋善協会では、1910（明治43）年から毎年8月13～16日に盂蘭盆会（お盆）を執り行う広告を『奥南新報』に掲載した。通達の影響が考えられよう。

官暦の旧暦併記を廃止する通達の影響で、八戸三社大祭の実施も旧暦から新暦へと変わった。八戸三社大祭の実施は旧暦7月20～22日だったが、1910（明治43）年から新暦9月1～3日となった。その後、1960（昭和35）年から8月21～23日となり、1982（昭和57）年からは8月1～3日へと変わった。現在は前夜祭の7月31日より後夜祭の8月4日までとなっている。

下北郡田名部町（現むつ市）の田名部神社例大祭は、旧盆から一日置いて旧暦7月18～20日までの3日間だった。1909（明治42）年までは旧暦7月18～20日に実施していたが、1911（明治44）年の『東奥日報』を見ると、「例年通り」新暦8月18～20日に執り行ったとある。官暦の旧暦併記を廃止する通達の影響があったといえよう。その後、この日程は変わっていない。

八戸三社大祭や田名部神社例大祭では、豪華な山車が魅力の一つとなっている。今年はコロナ禍のため各大祭が山車の運行を控えたが、神事は執り行われる。地域に根ざした祭りは、「旧暦廃止」や戦前戦後の混乱期、戦後の観光化など、さまざまな影響を受けながらも継承されてきた。祭りの実施日は、地域の人びとの生活や慣習と密接に関わる大切なものなのだ。

『東京と青森』628号
東京青森県人会　2020年8月号